

出家

《出演者》

範宴（親鸞）、慈鎮和尚（慈円）、日野範綱 お弟子 A、B、ナレーター

ここは、京都、比叡山天台宗の寺院、青蓮院。1181（養和元）年 春
書齋に慈円和尚が、座っている。

〈慈円〉 こんな夜中なのに、何やら、入り口の方が、さわがしい、どうした
ことだろう。誰かいるか？様子を見て参りなさい。

〈お弟子 A〉 はい、見て参ります。（出ていく。しばらくして戻る）

〈お弟子 A〉 お師匠さま、ただいま、玄関に、日野範綱卿 と甥の松若丸が来
られまして、松若丸の出家・得度を願い出ております。

何分、夜遅いことや、松若丸が、まだ9歳という若年であること
から、日を改めて、出直しなさいと申し上げました。

すると日野範綱卿は、あいすまなかつたと、お戻りなろうとしま
したが、こわっぱの松若丸が、どうしても、お師匠さまに、お会
いしたいと、申すものですから、口論になり、声が、つい声高に
なってしまって、申し訳ございませんでした。

どのように、追いついたらよろしいでしょうか？

〈慈円〉 日野家は、代々学問を極める貴族の家柄、学者である範綱卿も来
ているというのであれば、無碍に追いつくことも出来まい。
出家・得度ということを、その稚児に説いて、理解して帰っても
らうしかない。こちらに、お通ししなさい。

〈お弟子 A・B〉 日野範綱卿 と松若丸の前後について、ロウソクのあかり（燭
台）を持参して案内して入ってくる。

〈お弟子 B〉 お通しいたしました。

〈慈円〉 （お弟子に向かって）ご苦労様でした。
（松若丸の方を見て）そなたか？出家・得度をしたいという御仁は？

〈松若丸〉 はい、松若丸と申します。今年で9歳となります。父は日野有綱^{ありつな}、母は、吉光女^{きつこうじよ}、二人ともすでに亡くなり、今は伯父日野範綱様のもとで、御育てを蒙^{こう}っていただいております。今夜、是非とも、出家・得度の儀をしていただきたいと思います。

〈慈円〉 これはまた、きちっと挨拶の出来る凛々^{りり}しいお子よのう。しかし、出家とはどのようなものか、ご存知であろうか？一度出家したならば、おなごと一緒に遊ぶことも出来なければ、まして結婚はあいならん！厳しい戒律もあり、つらいことがあるのだ！
そのようなこともあり、得度の儀は、普通おとなと認められる元服の歳の15歳以上と定まっておるのだよ！

〈お弟子 A・B〉 そうだそうだ！と慈円お師匠様の話に相づちをうつ

〈松若丸〉 明日ありと、思う心の あだ桜^{ざくら}
夜半に嵐の 吹かぬものは

〈慈円〉 なになに、和歌を詠むとは！
今日きれいに咲いている桜、しかし夜一塵^{いちじん}の風が吹いたならば
次の朝には、桜は散ってしまう。

諸行無常の人生を見事に詠っている。この子は、仏法を説く私が、明日どうなるか分からないのに、得度の儀を待てというのは、どのようなことだと、和歌を通して、私を責め立てているのか？

あい分かった！そこまで仏教の心が分かり、意志が固いならば、出家・得度を許そう！

(お弟子に向かって) 得度の準備をなさい！

(髪の毛を剃刀で剃るマネをする)
これから、松若丸は「範宴^{はんねん}」となのがよかろう！

〈範宴〉 有難うございました。これから仏道に精進します。

ナレーター このように、当時としては珍しい9歳で、親鸞聖人は、仏道に入られたのでした。

(おしまい)